

一年より二年に至る 十二乃至十四時間

二年より六年に至る 十二時間

六年より十年に至る 十一時間

十年より十五年に至る 九乃至十時間

## 家庭閑話

### その子

▲淺ましかりしは、或年の暮、さる高き女學校の教師の許習つれしに、玄關前に餘念もなく遊び居たりし其家の男の子の、我が入り來りしを見て「オヤ變な野郎が來やがったよ」と立ち上りさせ、叫び出したるにぞ、胸潰るゝ心地して、思はず挨拶も勿々にして歸り來りぬとさる夫人の語られし。

▲親しき友の許訪ひけるに、折ふし留主との事にさらばとて他の用を濟ませての歸るさ、もはや歸

り來ませるにやと、又た尋ね見たるに、同じく其家の男の子の五つ四つとも見えしが、つと走り出て「また來やがったよ、此畜生」淺ましとも淺ましくて、主人のまだ歸りませずと聞けるを好機に、我は得も知らぬ感情を抱いて歸り來りしこともありき。

▲嗚呼、無心の幼兒―無心の幼兒のすることと言ふこと、一々そが爲めに心を動かすとははあらねど曇りなきこの幼兒の心の鏡に映れる家庭の面影のはしなくも、其口より其行よりはの見ゆるぞと思へばこそ。

▲「どーも、これが悪戯者で、手におへませぬで困ります」とは、幼兒を連れたるおつ母さんの口より常々聞く所なれど、而いふおつ母さんの心と口とは、いみじき裏表のあることにて、心の中では、

手に負へぬほど困らぬものと知るべし。

▲悪戯にも依る事なれど、泥こね、水いぢり、虫追ひなどに歸るを忘れ、飯事羽子つきに日の暮るゝも知らずうち過ごし或は紙片を切り散らしては下婢の掃除に困らせるなどは、何れも子供に相當なる活動なれば、丈夫な子の特徴として喜びこそすれ咎め立てすべき悪戯にはあらず、終日何の爲す事もなくて、たい無言の儘、柔順く座り居る幼児ならんには、夫こそ母親に取りては生長の後、尋常ならぬ困り物なりと知べきなれ。

▲冷水摩擦が健康によければとて、生れて一年も經つや經たぬ中より始むるは事理に通ぜぬ非常なり、皮膚に反抗力の出で來るは少くとも五六年の後なれば、幼児の冷水摩擦も此頃より始むべしと或小兒科醫は語られぬ。

▲嫁と姑との、氣の合はぬとに付き、大方の人は、現今過渡の時代新舊思想の不調和といふことに其原因を歸せんとする様なれど、それは極めて皮想の見解にして、女の四五十といふ齡は、確に一種の大なる生理的變動の來るものなれば、二者の不調和は専ら之が原因をなすものなりと説かれたる知名の文學者あり、果してさるものによ、もとより、たい新舊思想の衝突ばかりとは思はれねど。

▲返事を貰ふべき手紙を出す時は、必ず返信用の切手を封入することを忘るべからず、極めて親しき友達には例外として。

▲同じく自分の腹を痛めし子供を育つるに、何れ可愛さに差別のあるべしやと思はるゝに、さても人情はさまざま、姉を愛して妹をさほどに思はぬ

もあり、弟を可愛かりて兄をさまでに思はぬ母も  
ありとか、此上なき非事といふべし。

▲妻もたぬ男は妻に對する愛情を知らず、子持たぬ親は子の愛を知らず、兄弟なき子供は友愛の如何を知らず、何れも家族的感情の圓滿なる育成には缺けたる節ありとやいはん。

## 素人料理

●馬鈴薯の乳煮 馬鈴薯の皮をむき、二つに切り水へ浸してあくをぬき、鍋に入れ水をさしてゆで箸の通る位になりし時湯をこぼし、牛乳をいもの上こすほど充分に入れ、白砂糖と食鹽を好みに應じて加へ文火にてゆるく煮るべし。

●玉菜の鶏卵とし 玉菜の新しさを擇び外の葉を二三枚とりすて、中のやわらかき葉を、一枚つゝ

はがしざつとゆで、一寸水の中に浸し置き、鍋にかつをのたし汁のほどよく味つけたるを煮たせ

この中へ右の菜を入れ、暫くして鶏卵を割りよくかきまぜて、菜の上にひらなくかけて煮るなり。

●焼玉子 鶏卵六個に牛乳一合と鹽少し加へ、

メリケン粉六七匁を水にときて加へ、牛肉或は鶏肉を柔らかに煮て細かにきざみたるを交せ、焼鍋に油をしきて、焼くべし。

●豚切煮 豚の上肉を五分程に切り、バタを鍋にしき、割葱と一つに入れ、葱の煮けて色の變りたる時、鹽を入れ又メリケン粉をときて入れ、再び文火にて煮るべし。

●比目魚油煮 ひらめを鹽に漬け、一日程經て其鹽を洗ひ落し、パン粉に鶏卵をとき合せ、豚の油にて揚げ、ソースをかけて出すべし。